

「タイム」 下降開始(二三〇〇)↓

南沢出合(一四・五〇)

南 沢

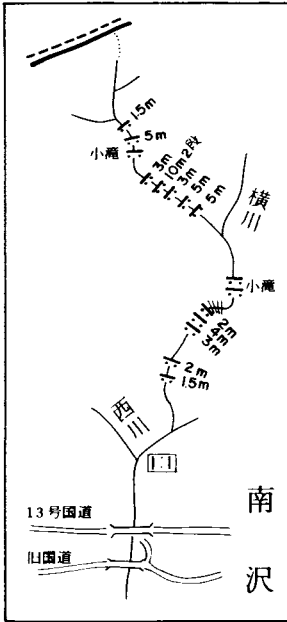
一九八二年八月二十九日

一三時四〇分、下降開始。二〇分

程下ると、沢の源頭に出る。

最初は一〇分程度の小滝が続く。やがて一〇分程度の二段滝が出てくるが、フリーで下ることができる。この下

小滝が続くが、ザイルは必要なく、楽に降りられる。



南 沢

一四時一五分、出合より遡行開始。

まもなく、一・五〜二分程度のナメ状の小滝が続いている。

出合から二〇分、八分の見事な滝。左岸を捲いて通過。

横川出合を過ぎた先にも小滝があるが、こかもフリーで下れた。

一五時四五分、西川出合。もう沢も終わりに近い。五分程で国道一三号線の橋の下に到着する。

「タイム」 下降開始(二三・四〇)↓

一三号国道(二五・五〇)

西 川

一九八六年六月二二日

滝の上もきれいなナメ。

左右同時に支流が入り、まもなくまた大きな滝。一〇分程度と判断して、左岸を登る。登ってみると、さらにあと一〇分はありそうだ。また登ってから、ルンゼをトラバースして、滝の上に出る。合計二〇分ほどの大きな滝だった。

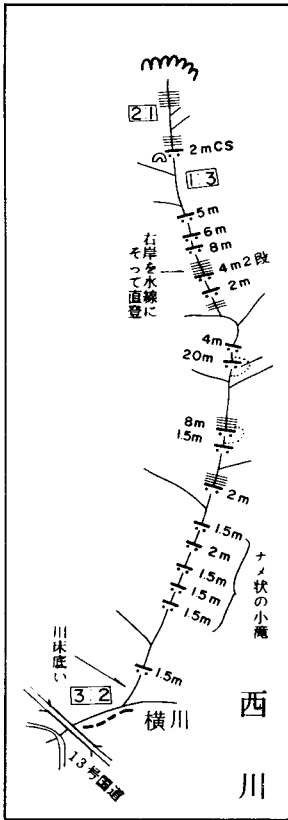
ここから上流は、四〜八段程度と、小沢にしては落差のある滝が続く。いずれも流れ近くを直登する。

左から二本の支流が入ると、水はかなり少なくなってくる。右岸には炭焼き釜の跡がある。こんな奥まで、大変な苦勞であったと思われる。

ここから一五分ほどで、スラブ状のカベに出たので、遡行を終了とし、同じ沢の下降に移る。

(記)

「タイム」 出合(一四・二五) ↓ 終了
(二五・四五)



不動沢

L
一九八三年五月二二日

沢登りは今日が初めてという兼子さんを加え、三人で不動沢をめざす。大滝宿の近くに車を置き、林道をたどって大力不動尊まで大急ぎで進む。大滝の部落から五〇分もかかるこんな山奥に宿泊施設までそなえた立派なお堂が建っていた。

八時五五分、遡行開始。最初の不

動滝一〇段は直登できそうにも思えたが、初めてワラジを履く兼子さんのことを考えて右岸を捲く。出だしの雰囲気としては上々。暗い沢筋に迫力ある滝とくれば前途おおいに期待というところである。

続いて五段の滝。私が最初に取り付き右岸を直登したが、ホールドも細かく、後続の二人には高捲きを指示する。あとは一転して平凡な沢となった。

しばらく歩いていると釣人に会った。「奥の滝まで行くのか。」と聞かれる。「葡萄沢山を越えて栗子トンネルの方へ下るんだ。」と答えたら、